

DLd 療法(7クール以降)

ID

患者名

体重

kg

初回・継続(前回 /)

★体表面積不要

印

印

血液内科

再発または難治性の多発性骨髄腫

★投与量

計算値

ダラザレックス	16mg/kg	mg	点滴静注	Day1
レブラミド	25mg	mg	内服	Day1～21
レナデックス錠	20mg/body	mg	内服	ダラザレックス投与後 Day1、8、15、22
デカドロン注	20mg/body	mg	静注	ダラザレックス投与前 Day1

★点滴スケジュール

投与 1～3 時間前	デカドロン注	生食 500mL +ダラザレックス	レナデックス錠
プレメディ	静注	約 3 時間	内服

★投与スケジュール

●1クール: 28 日

◎現在 クール目

次回

/

処方用量

ダラザレックス	mg	↓							
レブラミド	mg								
レナデックス	mg/週								
デカドロン注	mg	↓							
(投与日)		1	8	15	21	22			
		/	/	/		/			

★ 注意事項

・投与時に infusion reaction に注意する必要あり、プレメディ(解熱鎮痛薬・抗ヒスタミン薬・ステロイドなど)を行う。抗ロイコトリエン薬の追加併用が良いとのデータがある。

特有の症状として呼吸器症状(鼻閉・喘鳴・呼吸困難など)が起きやすい。

投与開始後約 90 分で生じやすい。

・投与回数、副作用発現により投与速度が異なるため注意。

投与時期	希釈後の 総量	投与開始からの投与速度(mL/hr)			
		0～1 時間	1～2 時間	2～3 時間	3時間～
初回投与	1000mL	50	100	150	200
2回目	500mL※ ¹				
3回目以降	500mL	100※ ²	150	200	

※1: 初回投与開始時から3時間以内に infusion reaction が認められなかった場合に 500mL で開始出来る。

※2: 初回・2回目投与時に最終速度が 100ml/hr 以上で infusion reaction が認められなかった場合に 100mL/hr から開始出来る。

・不規則抗体検査にて偽陽性になることがある。事前に検査科へ連絡。投与後 6 ヶ月間は影響あるため、投与前に不規則抗体スクリーニング検査を行う必要あり。投与患者への患者用カードがある。

・グレード 3, 4 の副作用として好中球減少症がおきやすい。

・レブラミドは病状・毒性によって減量する事がある。

・デキサメタゾン注射は内服で代替出来る。

・投与時にフィルターを通す必要あり。(異物の混注・凝集した抗体投与を防ぐため)